

大村市ホームステイ派遣事業 参加報告書

長崎県立西陵高等学校 一年

すずき りおん
鈴木 凜音

初めに

私は親にこのプログラムを紹介してもらいました。ポルトガルのホームステイに応募すると決めて、ポルトガルのことを調べているうちに、どんどんポルトガルに行ってみたいという気持ちが強くなりました。

そして、今回実際にポルトガルに行けることになりました。ポルトガルは思っていた通り素晴らしい国でしたので、ポルトガルの良さを少しでも伝えられたらと思います。

8月1日、2日

長崎空港を出発して羽田空港、パリのシャルル・ド・ゴール空港を経由して、リスボンのポルテラ空港に行きました。ポルトガルでは、頬と頬を合わせて挨拶するらしいですが、私たちが日本人と言う事で握手で挨拶してくれました。

挨拶の後、早速ホストファミリーと一緒にランチを食べに行きました。レストランでは食事が出てくる前にオリーブとパン、バターなどがおいてありました。日本ではオリーブはオリーブオイルにして使うのが一般的だと思っていたので、オリーブの実を食べるという食文化に早速少し驚きました。



8月3日

ユーラシア大陸最西端のロカ岬を訪れました。高い崖の上だったのもものすごく風が強かったのですが、ユーラシア大陸の最西端に来たのだと感動しました。最西端到達の証明書ももらってから、ホストファミリーとランチに行って街を散歩しました。街のマーケットではたくさんの方がいてとてもにぎわっていました。

世界のコルク生産量の半分がポルトガルで作られていると言う事で、コルク生産は非常に盛んでバッグやポーチ、財布などいろんなものがコルクで作られていました。コルク製品を売っているところはお店が写真のように茶色だらけで、日本では見るできないなと思いました。



8月4日

ホストファミリーがセジブラのビーチに連れて行ってくれました。日本で海に遊びに行く時は泳いだり波で遊んだり、多くの時間を水の中で遊びますが、ここでは砂浜で寝たり、読書をしたり、スポーツをしたりと浜辺で時間を過ごす様です。理由は水の冷たさにある様でした。この海水はとて冷たく、とても長時間入れる温度ではありませんでした。ポルトガルの西側は大西洋なので、海水温が冷たいとのこと。



8月5日

この日はシントラ市長を表敬訪問しました。シントラ市長はバカンス中だったにもかかわらず、出庁して対応してくださいました。そのあとニュースミュージアムというところに行きました。そこではニュースはもちろん、広告やリポートの歴史も学ぶことができました。リポーター体験ができたり、VRやクイズができ、楽しいミュージアムでした。ランチのあと、トラムと呼ばれる路面電車に乗ってビーチに行きました。シントラ市のトラムは坂道にあり、昔ながらのトラムで14km/hと、とても趣のあるトラムでした。車内ではみんなで英語でたくさん話しました。いろんな話題で盛り上がり、そして英語で話すことができ楽しかったです。ビーチでは、写真を撮ったりアイスを食べたり、この一日で学生のみなどととても仲良くなれたのではないかなと思っています。



8月6日

みんなでムーア城跡とペーナ宮殿を訪れました。ムーア宮殿は遠くを見張るために建てられたのでものすごく高いところにあり、シントラの街を一望することができました。城跡の中には昔の土器や装飾品を展示している博物館もあって、日本のモノとはまた違い、精巧に出来ている感じでとても興味深かったです。ペーナ宮殿は建物の壁一面が色々な色に塗られていて、とてもカラフルですごく見ごたえがありました。建物の中は撮影禁止だったので、写真に残せず残念でしたが、宮殿の中でも家具や置物、壁や天井の装飾がとっても細かく丁寧で綺麗で、昔でもこのようなものをつくることのできたのだと驚きました。ランチを外で食べた後、ペーナ宮殿の近くの森を歩きました。出口から出ようとした時にストライキの関係で門が閉まっていたので、そこから出ることができませんでした。私の住む大村ではストライキを見かけることは殆どないので、



実際にストライキが起こっているのを初めて経験し、こんなにも影響が及ぶのだということを知りました。

8月7日

シントラ宮殿、ケルース宮殿、モンセラテ宮殿を訪れました。一日に3つも宮殿を訪れるというとても豪華なスケジュールでした。どの宮殿でもそれぞれ部屋に入るたびに壁や天井の装飾がすごくて、うわあという感動がありました。

日本にある遺産とは全然違って、ここでしか見れない建物だなと思いました。鏡に映して写真を撮ったり、銅像と同じポーズをして写真を撮ったりと少しふざけたりしてみんなで盛り上がりながら、楽しく観光することができました。



8月8日

森林の中にたたずむレガレイラ宮殿を訪れました。この日はあいにくの天気で霧がかかっていたのですが、逆にミステリアスで幻想的な雰囲気とてもステキな場所でした。深い井戸をくだったり、池の上の



石を渡ったり、洞窟で行先を変えて何回も探検したりとアドベンチャーゲームのようで、ワクワクしました。ランチにバカリヤウという魚料理を食べました。バカリヤウ(塩漬けにしたタラのことで、様々な料理に使われる。)はポルトガルの伝統的な料理で、グラタンのパスタの代わりに魚が入っているような料理でした。

午後からはショッピングモールに行きました。長崎にあるショッピングモールとは比べものにならないくらいの大きさと広さに驚きました。夜はちょっとしたフェスティバルに行きました。料理は美味しかったし、出店もハンドメイドのものや、折り紙でできたもの、コルクでできたもの、石でできたものなど、さまざまなものがあり、とてもユニークでした。

8月9日

ジェロニモス修道院を訪れました。ポルトガルを調べていたときからずっと行ってみたいと思っていたので、行けて本当によかったです。写真で見るより何倍も大きくて、広くて、綺麗でした。中に入ると広い中庭があり、ハリーポッターに出てくるホグワーツのようでした。建物の柱や壁、天井などの細かいところまで掘って装飾してあり、現代みたいに機械がない時代にどのようにしてこの建物をたてて、こんなに細かく装飾をしたのだろうかとても不思議に思いました。ダイ



ニングルームがとても広く、舞踏会でも開けるのではないかと思います。ランチのあと、修道院の近くの公園でお互いの国の遊びをみんなで見ました。ポルトガルの遊びは日本の遊び(ハンカチ落とし)と似ているものもあり、すぐに理解して遊ぶことができました。このようにみんなで見ると、国際交流ができてると実感でき、とても楽しかったです。

そのあと、ボートに乗って、ポルトガルで有名なエッグタルトを食べました。エッグタルトというけれど、外側はタルトではなくパイ生地でした。サクサクのパイと、中のとろっとした卵のペーストが絶妙にマッチしていて、とてもおいしかったです。ポルトガルに来た時には、ぜひ一度食べてみてほしい最高のスイーツです。

8月10日

学生全員と随員さんで、マサス海岸のビーチに行きました。ビーチでは水にはいってみたい、砂に埋めたり、UNOをしたり、ビーチバレーをしたりというろんなことをして遊びました。ビーチバレーはずっとしたいと思っていたので、出来て嬉しかったです。



夜は私がホームステイしている家に集まって BBQ をしました。日本では焼いたお肉をそれぞれ取り分けてその場ですぐに食べますが、ポルトガルでは、焼いたお肉を大きな皿に移し、テーブルに運んでそこで取り分けて、きちんとナイフとフォークで食べていました。

この日はポルトガルのフットボールチーム(ベンフィカ)の試合があり、携帯で少し試合を観戦し盛り上がりました。試合は5-0で勝利しました。ポルトガルのひとはフットボールが好きな人が多く、家族みんなで応援するチームカラーのシャツを着て試合を観戦している家族もいました。うちの家族はみんな盛り上げて応援するという事はあまりないので、こんなふうにできたら楽しいだろうなと思いました。

8月11日

この日はホストファミリーとビーチに行きました。前とは違うシントラのビーチでしたが、ここもきれいなビーチでした。私は海が好きなので、こんなにきれいなビーチがどこにでもあっていいなと思いました。



夜はシントラのショッピングモールにある日本食屋に連れて行ってもらいました。ここで食べるお寿司は日本の回転ずしとは違い、値段が高かったです。味はとても美味しく、日本のものに近い味でした。しょうゆは少し薄味で、さらさらしていました。でもやっぱり日本のお寿司が美味しいなと思いました。留学生が日本に来た時には、回転ずしに連れて行きたいと思います。

8月12日

最終日は学生みんなで、首都のリスボンを観光しました。この日はガイドさんや現地の随行員の方がいなかったため、ポルトガルの学生の4人が案内してくれました。



面白い写真もたくさん撮りながら最後の観光を楽しみました。リスボンは人が多くにぎやかで、街並みや遺跡の雰囲気はシントラとはまた違いますが、リスボンもとても素敵な所でした。帰りの電車の待ち時間に公園で折り紙をしました。遊び方や折り方をたくさん聞いてくれて、日本の文化に興味を持っていてくれたのがとても嬉しかったです。

各家庭でディナーを食べた後、シントラのショッピングモールに集まり、アイスを食べに行きました。これで、ポルトガルでみんなで遊ぶのが最後だと思うと寂しい気持ちになりましたが、本当に充実した10日間を過ごすことができました。

8月13日、14日

ついに出国の日。朝食の時に最後のご飯だと思ったら涙があふれ出てしまい、止まりませんでした。そのくらいここでの生活は充実していて最高に楽しかったです。4人の留学生が日本に来てくれた時、このくらい長崎を楽しんでもらえるようにもてなしたいと改めて思いました。



終わりに

すごく楽しくて、充実していて、濃いホームステイ期間でした。

国の違い、文化の違い、言語の違い、さまざまな違いを実感し、その違いがとても面白くて素晴らしいものなのだとことを知りました。毎日が驚きの連続で、刺激的でまた行きたいと心から思えました。今回、このプログラムに参加することができて本当によかったです。

10日間泊めてくれたホストファミリーのマナタさん一家。14日間一緒に旅したじんさん、ひよりちゃん、はなちゃん、随行員の丸山さん。留学生のイネス、ガブリエル、トーマス、マリアナ。たくさんのことを教えてくれたフィリパさん、エルサさん。大村市企画政策課の皆さん、大村市長、シントラ市長。何より、参加させてくれたお父さん、お母さん。他にもこのプログラムを支えてくれた全ての方々、このプログラムを通して出会った全ての方々に心から感謝しています。来年も再来年も5年後も10年後もこのプログラムが続くように願っています。今回は本当にありがとうございました。

